

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

379号

2022年9・10月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

8・15自主平和統一大会(ソウル)に韓統連代表団が参加

●3年ぶりにソウルを訪問した韓統連代表団

2019年の8・15ソウル大会参加以来、3年ぶりに韓統連母国訪問団18名がソウルを訪問した。

8月13日(土)午前10時にホテルのミーティングルームで結団式が行われた。宋世一(ソン・セイル)委員長は「8・15自主平和統一大会と平和行進を通じて、戦争局面、対決局面を平和局面、自主統一局面へと転換していこう」と訴えた。金昌五事務長から行事日程の解説を受けた後、代表団18名は黄色のTシャツを着て大会会場へと移動した。

大会会場の南大門広場では12時から前段行事として「統一ピビンパ分かち合い」行事が行われた。平和行進を終えて会場に到着したメンバーを慰労するための行事で、各種野菜に囲まれた中央のご飯の上にコチュジャン(からしみそ)で統一と書かれた特大容器でピビンパを作って行進団と一般参加者にふるまわれた。

●市民大会とデモ行進で

韓統連代表団が紹介され拍手と歓声で歓迎

雨が降り出す中で、午後2時から部門ごとの大会が開催され、韓統連は市民社会団体の行事に参加し「日本から3年ぶりに韓統連の代表団が参加されました。黄色いTシャツの皆さんです」と紹介され拍手と歓声で歓迎された。午後2時半からは約1万名の参加者全体で自主平和統一大会本大会が開催された。力強い律動に始まり各界代表の演説の後、決議文を採択して、龍山にある尹錫悦大統領執務室に向けて平和大行進を行った。韓統連代表団は先頭グループで行進したが「光復77周年在日韓統連母国訪問団」の横幕と韓統連の旗

を先頭に行進を始めると多くの取材陣が写真撮影を行っていた。「戦争を呼び込む敵対政策を中止しろ!」「韓米合同軍事演習を中止しろ!」と声を限りにスローガンを叫びながら行進した。韓青は第2グループの青年学生チームで行進し韓成祐委員長は先頭車両の上で力強く演説を行った。

●国内統一運動団体とともに慰労会

行進終了後はバスで西大門に移動して、国内統一運動団体の人々とともに慰労会を行った。韓忠穆(ハン・チュンモク)韓国進歩連帯常任代表による韓統

連訪問団に対する歓迎のあいさつに続き、宋世一委員長が答礼のあいさつを行った。宋世一委員長が「3年ぶりの訪問になったが、入国前にはPCR検査(コムサ:検査も検事も韓国語でコムサ)、入国時は空港で荷物の検査(コムサ)、入国後も



▲「統一ピビンパ分かち合い」行事で
記念写真を撮る金昌五副代表(写真中央)

PCR検査(コムサ)と検査(コムサ)の連続で、大韓民国

が検事(コムサ)共和国になったことを実感した」とあいさつすると爆笑の渦に包まれた。

金昌五事務長の進行で韓統連の代表団全員が自己紹介を行い、一人一人に温かい拍手が送られた。各界代表からのスピーチの後は、韓国側と韓統連との歌合戦で大いに盛り上がった。最後に韓統連代表団一人一人に高麗人参エキスが贈呈された。

14日の午前10時から解団式が行われた。宋世一委員長のまとめのあいさつに続いて、韓忠穆進歩連帯常任代表と林鍾仁(イム・ジョンイン)韓統連対策委員会執行委員長がそれぞれ連帯あいさつを行い韓統連代表団の労をねぎらった。

尹錫悦政権下においても自主・民主・統一運動を力強く推進していくことを国内民衆とともに決意する貴重な機会となった。(金五)

【母国訪問団感想文】 デモ行進中、そして今も去来する想い —李石基氏を復権させよう！—

金昌範(キム・チャンボム)

個人的には18年ぶりの母国訪問団への参加だった。参加を決めた一番の理由は、南の地で8月に行われる自主平和のための闘いの何百万分の1の力になりたかったことだ。したがって生業の都合などから、公式行事への参加が8月13日の自主平和統一大会と、それに続く平和大行進のみであった(交流会を除いては)が、今回の自分にはそれで十分であり、また限られた参加機会ながらも持ち帰るものがあつた。

なく彼のことである。



▲「李石基議員赦免復権(写真後方)」を

掲げ行進する参加者

彼には、実刑とともに資格停止7年という判決も下されている。わずかの刑期を残して赦免ではなく刑執行停止と決定されたことは、彼の公民権回復がまだまだ遠い先であることを意味する。そうでなければ彼もこの隊列の中にいたはずだ。そう考えると進路の目の前に広がる景色のトーンも少し重くなった。「李石基を復権させろ」のブースは、その後もさらに1ヶ所、2ヶ所…。思わず『李石基氏を復権させよう！』と叫びたい気持ちが湧きあがったが、逡巡しているうちに平和大行進は終了した。

李石基氏に対する刑執行停止という判断は、文在寅政権及び当時の与党である共に民主党の民主改革への意志の脆弱性を表す象徴的な事柄の一つであり、尹錫悦の執権を許したひとつの要因でもある。ならば改めて今回の大会を築き上げた、自主的民主的な社会の実現に向けて奮闘する仲間たちへの信頼と連携を心掛けつつ、日本の地でこれからも李石基の現境遇の意味を折に触れ訴えながら、彼の復権にとって有利な状況づくりに寄与できる行動に努めていきたいと思う。



▲平和大行進をする金昌範副代表(写真中央)

今回の行事で最も驚いたのは、DMZ(非武装地帯)平和大行進の数十キロの行程から休日も挟まず、今回の大会と大行進に合流した人々の情熱とタフネスだった。そして圧倒的に沢山の人々の集まりであった民主労総の存在感も印象に残った。

彼らの強い存在感が、働き生きる現場から闘うことの重要性をあらためて実感させてくれた。しかし、それらを含めた何よりも強く印象に残ったのが、平和大行進中に現れた「李石基(イッギ)を復権させろ」という文字であった。

雨天の中のデモ行進の、まだ中盤にも達していない道中で「李石基(イッギ)を復権させろ」と書かれた4メートル四方位あろうかという空色の布(幕)を掲げたブースが目映った。元統合進歩党の国会議員で、最終的に国家保安法違反などで収監され、昨年12月に刑期満了まで1年半を残し、刑執行停止措置で釈放された李石基、間違い

2年半ぶりに韓青全国夏期講習会開かれる

韓青中央本部委員長 韓成祐(ハン・ソンウ)

ついて語り合いました。

夜にはバーベキューや花火、兵庫県本部盟員による漫才披露などを楽しみ、お酒も飲みながら明け方まで交流しました。

韓青は7月30～31日にかけて、滋賀県近江八幡市にある「休暇村 近江八幡」で第54回韓青全国夏期講習会（サマーキャンプ2022）を開催しました。約2年半ぶりの開催となる韓青全国キャンプに全国各地から在日コリアン青年が結集し、密度の濃い1泊2日を過ごしました。（韓青ホームページの方でも写真を中心に報告しているので、良ければご覧ください）



▲参加者全員で記念写真

新型コロナによる影響で対面での活動が制限される時期を乗り越え、快晴のもと琵琶湖湖畔沿いのキャンプ場に全国から在日コリアン青年が結集しました。

司会は韓青生野北支部の金和容（キム・ファヨン）委員長と韓青三重県本部の丁悠瑪（チョン・ユマ）副委員長が務めました。1日目は開会式後にレクリエーションを実施、リレー競争などで体を動かし汗を流しました。

続くグループ学習企画では兵庫県本部の尹鏞昊（ユン・ヨンホ）委員長代行が進行を務め、在日コリアン青年として生きる中で日本社会に感じる違和感や息苦しさ、モヤモヤした経験について参加者同士で話し合いました。参加者は過去の体験や最近あった民族に係わるモヤモヤした経験などを話し合い、多くの在日コリアン青年に共通する思いに



▲バーベキューを食べながら親睦と交流を深める

2日目は午前中にグループ学習企画のまとめをした後、閉会式を行いました。閉会式では参加者から「久しぶりの全国行事を楽しむことができた」「討論を通じて様々な考えの人と話せて良かった」「地方本部や世代の垣根を越えて、語り合うことができた」といった感想が語られました。

最後に愛知県本部の趙正春（チョ・ジョンチュン）委員長が閉会あいさつを通じ「韓青には自らのルーツに真剣に向き合う青年が集まる。活動を通じて『どう生きたいか』を共に考える仲間になろう」と語り、韓青行事での再会を呼びかけました。

韓青では地方本部（東京・愛知・三重・京都・大阪・兵庫）単位での活動の他に、サマーキャンプのような全国単位での活動を企画しています。またオンラインでの発信・交流にも力を入れており、全国どこにいても在日コリアン青年同士でつながれる組織作りに取り組んでいます。ぜひお近くの在日コリアン青年（朝鮮半島にルーツを持つ16～35歳の青年、国籍不問）のご紹介をよろしくお願い申し上げます。



「真の解決」は被害者の望む解決以外にあり得ない！

日本製鉄元徴用工裁判を支援する会 中田光信

日韓両政府ともにトップが交代し、徴用工問題を巡って様々な動きが出てきているが、日本政府は一貫して「韓国政府の責任で解決すべき」との立場を崩していない。

一方、文在寅政権は光復節の演説では必ず「過去清算」問題を取り上げていたが、尹錫悦大統領は今年の演説で「日本は共に力を合わせて進むべき隣人であり、韓日関係の包括的な未来像を提示した金大中・小渕共同宣言を継承し、韓日関係を早期に回復・発展させ、日本と韓国は国際社会の平和と繁栄に共に寄与すべきである」と過去清算に触れない未来志向を唱えた。しかし、1998年に結ばれた日韓パートナーシップ宣言は「わが国が過去の一時期韓国国民に対し、植民地支配により多大の損害と苦痛を与えたという歴史的事実

を謙虚に受けとめ、これに対し痛切な反省と心からのお詫び」を前提としたものだった。

このような尹政権のもとで、かつて「慰安婦」問題の合意時に事前に被害者らの意見を聞く場を持たず批判された経験を踏まえて、被害者・支援団体を交えた徴用工問題解決のための「官民協議会」が7月4日に発足、これまでに3回の会合が持たれた。

この協議会には三菱重工に強制連行された元女子勤労挺身隊被害者を支援する「日帝強制動員市民の会」は「加害者である被告三菱側の真実率直な謝罪と賠償以外に他の解決策はあり得ない」と不参加を宣言する一方、日本製鉄の元徴用工被害者の代理人弁護士らはこの協議会に参加し、第1回の協議会では「被害者が日本政府や日本企業と直接交渉できるよう外交的な努力を行うこと」を韓国政府に求めた。これは被害者が判決の当事者である企業と直接交渉できるように韓国政府として被害者がもつ「請求権」について、外交保護権

を発動することを求めたものだ。そして「謝罪」に関しては「強制動員という不法行為に対し、日本政府と企業の双方の謝罪が必要だが、日本政府の強硬な態度をみると現実的には最低限でも日本企業の謝罪が必要」との立場を示した。また「補償」については基金をつくり賠償するいわゆる「代位弁済」方式を進めるのであれば、被害者の同意を前提に基金へ被告企業が参加することが最低条件であるとした。

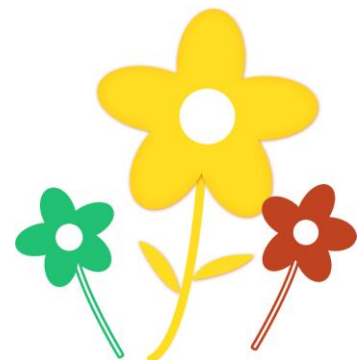
ところが韓国政府はこの協議会を開催する一方で、被害者が訴えていた三菱の差押資産の「現金化命令」について、外交部が「解決策作りのために多角的に外交的努力を傾けている」という事実上判決の先送りを求める意見書を被害者側には一切事前説明もなく大法院（最高裁）に提出して

いたことが明らかとなった。これは残り少ない被害生存者の権利行使を妨げるだけでなく、司法に対する行政の介入に他ならなかった。この事態に「訴訟妨害に準ずる重大な問題であり、政府との信頼関係は損なわれた」として日本製鉄の被害者と支援団体も協議会から離脱した。

この間の経過を通じて韓国政府がいかに日本政府への安易な妥協策で「政治決着」を図ろうとも、被害者の納得のいく解決案でない限り徴用工問題は解決しないことがあらためて示された。



▲尹政権の屈辱的対日外交を糾弾する市民社会団体記者会見



【投稿】

父は旧満州の警察官だった

中山茂(フリージャーナリスト)

父は旧満州のゲリラ討伐隊の幹部だった。阪神大震災の直後、私が住んでいた長田区にお見舞いに来た時に詳しく聞いた。戦前、父たちは旧満州（中国東北地方）の通化省撫松（ぶしょう）県に住んでいた。父は熊本県玉名郡の貧農の出身で食うために満州に渡った。父の兄も満鉄の社員だった。父は1913年（大正2年）の生まれ。母も同じ玉名郡の別の村の出身だった。

父は敗戦時32歳だった。当時、日本軍では「100人斬り」が流行っていた。当時の東京日日新聞（昭和12年12月12日付。現在の毎日新聞）の記事にもある。しかし、今では公式には誰も認めない。旧日本軍では満州警察も含めて捕虜を殺すことは日常的だった。これは明確に国際法違反だ。父は「自分の歳だけ首をはねるのが流行っていた。同僚には、民間人も含めて歳をはるかに超え首を切った警官もいたが、ワシは歳の半分ほどだ。民間人はできなかった」と言った。民間人を殺した軍人や警察官は戦後人民裁判で処刑になった者も多い。父は8月15日以降、朝から晩まで数日間、文書、手紙、写真を燃やし続けた。強制連行や日本軍「慰安婦」の公式な資料がないという人たちがいるが、当たり前だ。全て処分している。

父たち（敗戦時母27歳、長男3歳、長女2歳、次女ゼロ歳）は、1946年の秋に遼東半島の大連かコロ島から引き揚げると、詳細は分らない。父はなぜシベリアに抑留されなかったのか。聞いても「家の使用人がパーロー（八路軍、中国の人民解放軍）の幹部で助けられた」と苦笑いするだ

けだった。

父の旧満州時代のことを書き出したのは最近のことだ。姉たちとも話になった。記憶が曖昧なところも次第にはっきりしてきた。さらに引き揚げの時、子どもは3人でなく5人だったとゆうことも聞いた。孤児の男の子2人を博多まで両親は連れてきたのだ。

撫松（朝鮮語ではムソン）県は、朝鮮の抗日戦争の聖地で激戦地だったそうだ。朝高の歴史の先生に聞いて驚いた。撫松県城の攻防戦は有名だとい

いう。ここで朝鮮人の抗日ゲリラは関東軍、満州警察に大きな打撃を与えた。撫松県城の攻防戦が1936年8月。

長兄が撫松県城で生まれたのが、1942年4月。少なくとも42年当時、父達は撫松にいた。満州の東北抗日聯軍の主要な部隊は、1940年以降日本

軍の大討伐作戦で打撃を受け、ソ連領に撤退している。残った小部隊がゲリラ活動をおこなった。越境した主力部隊は、落下傘の降下訓練など、本格的な祖国解放戦争の準備を始めたようだ。第一路軍の総司令が楊靖宇将軍（満州人、40年2月戦死）。第一路軍第2軍第6師の師長が金日成将軍だった。父はパーロー（八路）と言っていた。抗日ゲリラを総称して「パーロー」と言ったのかもしれないが、すでに亡くなり詳細は不明だ。

歴史に真摯に向き合い、正しく清算し、総括できなければ未来の展望も勝ち取れない。

歴史に謙虚にならなければならない。戦後70年余、日本人民の歴史清算はまだ途上だと思う。



▲満蒙開拓団入植図

とめよう！戦争への道 めざそう！アジアの平和 2022秋関西のつどい

日時：10月22日（土）午後1時30分：開場／午後1時50分：開会

場所：エルシアター（京阪・地下鉄天満橋駅下車徒歩7分）

内容：衆議院 新垣邦男さん講演「沖縄復帰50年—沖縄からの報告」他

資料代：500円（中高生・介助者無料）

主催：同実行委員会 TEL06-6364-0123（中北法律事務所）

【コラム】

韓国語を最短でマスターする方法

「韓国語が話せたらいいな」と思っているあなた、これまでに何度もチャレンジしたけど挫折したというあなた。そんなあなたにとっておきの方法を伝授します。まず私の現在の韓国語の実力がどの程度かという、韓国語能力試験(TOPIK) 6級合格(リスニング満点)、ハングル検定1級合格です。以前、韓国語を使う仕事をしていたとき、ネイティブの韓国人に「日本に来て何年になるの?」とよく聞かれました。数年前からは韓国語の小説を毎朝読んでいます。日本にいながら韓国語をマスターした私が、韓国語を最短でマスターする方法を伝授します。

●入門書を

一冊徹底的にやる

まず韓国語の入門のテキストを一冊購入してください。書店でパラパラめくってみて「何となくわかりやすそう」と思うもので大丈夫です。購入したら、テキストのスキットの音声をスマホに入れます。おすすめのアプリは repete です。私は今、中国語と英語とフランス語を同時に勉強しているのですが、その音声をこのアプリに入れて毎朝聞いています。無料でダウンロードでき、リピートできるので最高に便利です。実際に聞いた時間も記録してくれます。

テキスト購入→音声をスマホに入れる。ここまでは一気にやってしまいましょう。

もうひとつ、おすすめなのはNHKラジオの「まいにちハングル」です。NHKゴガクという無料のアプリで1週間前の放送内容を聞くことができます。説明も丁寧でわかりやすいので初心者や、やりなおしの方にはぴったりです。ただ、これだけだと韓国語の音声を聞く量としては圧倒的に少ないです。解説がすべて日本語なので、韓国語の音を聞く機会を他で増やす必要があります。朝起きて朝食の準備や出かける準備をするときに、このどちらかを聞くことをまず習慣にしましょう。

韓国語が伸びない人の特徴は2つあります。文法の知識が曖昧ということと、発音が不正確ということです。この2つをまず徹底的にやるのが韓国語をマスターするための基本になります。そのためにはまず入門のテキスト一冊を徹底的にやることです。

●Netflixを契約する

家でくつろぐ時は日本のテレビ番組は一切見たいけません。韓国ドラマを見ましょう。おすすめはNetflixです。月900円ほどで韓



▲Netflixドラマ「未成年裁判」

国ドラマや映画が見放題です。もちろん字幕付きですが、Netflixの最大のメリットは「字幕が消せる」というところです。韓国語に慣れたら一度やってみて下さい。もうすでに十分内容がわかっていると、字幕なしで見てみましょう。俳優の表情に集中して韓国語のセリフを聞き、別の世界が見えてきます。

字幕を見ながらだと絶対に韓国語の勉強にはなりません。私も数年前から韓国語の小説を読んでいます。日本の小説を読むよりかなり遅いです。1ページ読むのに2分かかります。日本語の字幕があると字幕が先に目に入ります。つまり耳(韓国語)より目(日本語)が先に脳に認識されてしまうのです。ですから韓国ドラマだけを見ても韓国語は上達しません。字幕ありと字幕なしではまったく別の世界なのです。

ちなみに映画「ベイビーブローカー」をご覧になりましたか? ペ・ドゥナとイ・ジウンは魅力的でしたが、はっきり言って物足りない気がしました。ポン・ジュノの「パラサイト」を見た私には、是枝監督の世界はやさし過ぎるようです。一日も早く刺激に満ちた韓国に自由に旅行に行ける日が来ることを祈るばかりです。その日が来るまでに韓国語をマスターしてしまいましょう!

キム・ヘス

韓統連母国訪問団の成果と

4・19革命以降の現代史を共有する 韓統連セミナー「ウリ現代史」第2回

韓統連大阪本部主催による韓統連セミナー2022シリーズ「ウリ現代史」第2回「統一か基地国家か(1960年～65年)」が9月11日(日)、KCC会館(大阪市生野区)で開かれた。

セミナーでは、金隆司(キム・ユンサ)大阪本部代表委員が主催者挨拶を通じ「韓統連セミナーは参加した皆さんと共に学び、共有する場です。今回も積極的に意見交換をしていきましょう」と語った。

次に、金昌五(キム・チャンオ)大阪本部副代表委員が光復77周年韓統連母国訪問団(8/12～14)の活動報告を行った。報告では画像を活用しながら母国訪問団の活動を報告し、8月13日にソウルで開かれた「自主平和統一大会」への参加など、3年ぶりの母国訪問でから取った成果を共有した。



▲熱心に講演を聞くセミナー参加者

続いて、金昌範(キム・チャンボム)大阪本部副代表委員が「統一か基地国家か」をテーマに講演を行った。金副代表は初めに4・19革命に至る背景とその後の民衆運動の発展などについて解説した。そして、朴正熙を中心とする5・16軍事クーデターと朴正熙の人物像について解説しながら「朴正熙は上昇志向が強く、変節漢で用心深い人物である」と指摘するとともに、1965年の韓日条約締結について「植民地支配の責任問題、賠償問題はじめ玉虫色の決着であり、米国の影響によるアジアの反共軍事態勢の再編へと進み、民衆不在の決着だった」と語った。

講演終了後、質疑討論が行われ、韓統連セミナーは終了した。

日朝ピョンヤン宣言から20周年を迎え 康宗憲代表が講演

日朝市民連帯・大阪主催9・16大阪集会

日朝ピョンヤン宣言発表から20年を迎え、日朝市民連帯・大阪の主催で「日朝ピョンヤン宣言から20年 日朝国交正常化の早期実現を求める大阪集会」が9月16日(金)、エルおおさか(大阪市中心部)で開かれた。

集会では、日朝市民連帯・大阪共同代表の大野進さんが主催者挨拶を行い「日朝ピョンヤン宣言が発表されて20年が経過するが、そのほとんどが実現されていない。とても重要な宣言なので必ず実現させよう」と語った。



▲講演する康宗憲代表

次に「日朝関係の現状と課題について」をテーマに、韓国問題研究所代表の康宗憲(カン・ジョンホン)さんが講演を行った。康代表は講演を通じ最近の朝鮮半島情勢について「朝鮮では“制裁の解除”から“制裁との共存(自力更生・自給自足)”へと政策を転換させ、国内経済は安定している」と指摘するとともに、尹錫悦政権について「北を主敵と見なし、親米・親日政策が基本」と解説した。

そして「日朝ピョンヤン宣言は根本問題(植民地支配の歴史清算)と懸案問題(日本の安全保障)の同時推進が核心だ」と述べ、自らの獄中体験を振り返りながら「粘り強く運動を進めれば、必ず日朝国交正常化は実現できる」と語った。

講演終了後は、岸田首相宛の要請文が確認され、最後に日朝市民連帯・大阪共同代表の長崎由美子さんが閉会挨拶を行い、集会は終了した。

【書籍紹介】

朝鮮仏教の寺と歴史

著者:鎌田茂雄

出版社:大法輪閣・1150円

古代朝鮮と大和の交流遺産と言ったら、誰もが
お寺(仏教)と思わないだろうか。私は思ってい
たし、だから日韓関係はよくなる(未来方向で)
と思っていた。古代のロマンを思
う時、ワクワクする。

今のように印刷技術もなく、イ
ンターネットもない状況で朝鮮や
日本に仏教が伝来したこと。以下
本から抜粋する。

ソウル特別市の中央政庁前を左
へ曲がってしばらく行くと社稷(サ
ジク)公園がある。社稷壇が祀られ
ている。この社稷は五穀の神を祀
る祭壇であり、李朝時代に建てら
れたものだという。五穀の神であ
る社稷を祀るという習慣は朝鮮半
島では古くからあったもので、高
句麗族は鬼神、靈星、社稷神などを祀っていたこ
とが中国の史書である「三国史」の「魏書」の
「高句麗」の条下に記されている。

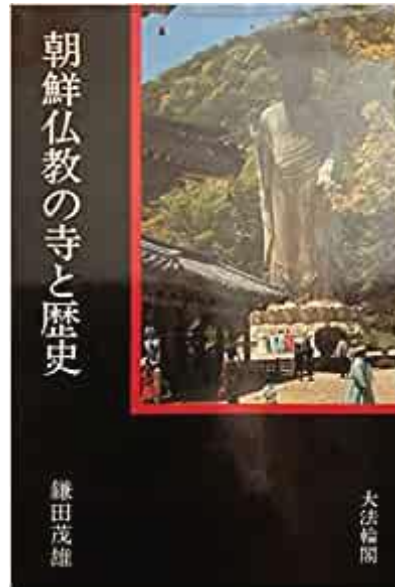
中国大陸から朝鮮半島へ仏教が伝来するのは高

句麗、百済、新羅の三国鼎立時代のことであり、
高句麗に最初に伝来した。「三国史記」によると
小獸林王二年の夏6月、秦王苻堅が使いをつかわ
し僧順道4年に僧阿道を遣わした。

高句麗は僧順道に雀門寺、阿道に
伊弗蘭寺を建てたのが海東仏教の始
めであるということだが、これだけ
を読んで見ても日本に仏教をもたら
したのは百済、それが聖徳太子につ
ながっていくという断片的な歴史観
から脱すると思う。

本書は朝鮮の仏教の流れをまとめ
たものである。この本との出会いは
下鴨神社の古書市でのことで、韓青
の盟員だったときに見つけたもので
ある。

今でも大切にしまっており、今回
図書ボックスの中から出してあげられて本当に嬉
しい。皆さんにもこの本から歴史ロマンを感じて
もらいたい。(法師)



◆◆行事予定◆◆

韓統連セミナー2022 シリーズ「ウリ現代史」第3回

「1980・5・18光州民衆抗争」

日 時：10月23日(日)午後12時30分 受付/午後1時 開会
場 所：KCC会館5階ホール(地下鉄今里駅下車2番出口から徒歩7分)
大阪市生野区中川西2-6-10
講 師：金隆司(ナム・リョウジ) 韓統連大阪本部代表委員
参加費：800円(青年学生500円)
主 催：韓統連大阪本部 TEL 06-6711-6377

お詫び

9月初旬に9月号を発行する予定でしたが、編集者が韓国で新型コロナに感染し、大幅に帰日が遅れたため、9月・10月合併号として発行することになりました。

原稿を送って頂いた方々、読者の皆さん、申し訳ありませんでした。今後は毎月発行していきますので、よろしくお願いします。(ソン)